



緑化優良工場等選考委員会における コメント集 <ご参考>

緑化優良工場等選考委員会においては、ご推薦いただいた各工場の推薦書をもとに総合的な判断で各賞の選定を行っています。今後ご推薦を検討していただける都道府県及び政令指定都市のご担当者の皆様が、推薦工場のアピールポイントなどを記載する際のご参考となることを目的として、近年開催された同委員会において各選考委員の方々からいただいたコメントの一部を以下に集約しました。

なお、各コメントは特定の推薦工場に対して述べられたものですが、固有名詞等を一般的な名称に修正してとりまとめています。また、同じような内容のコメントが複数見受けられますが、そのような内容はより重要な事項であるのご認識いただければ幸いです。

一般財団法人日本緑化センター 緑化優良工場等選考委員会事務局

- 工場緑化は、快適に仕事が行える従業員のためと地域の緑を守る役割、そして地域との交流の場としての役割が求められる。その一方で、地域特有の樹種（在来種）を守り育て、地域に生息する生物を保護することで、工場立地の開発に対する代償を払う意味でも重要視される。最近の受賞工場の中には、地域で天然記念物に指定されている生物を近隣大学との協働研究で保護に勤めるなど、生物学的な意味や、自然を元に戻す再生の意味もある。これからの工場緑化には、自然再生や生物多様性の保全など、付加価値を生むことが重要と思われる。
- 緑地の多さについては評価できるが、緑地は営業戦略上（観光+売上増加）のもので、働く従業員や近くの住民の憩いの場、交流の場として活用されているかが課題となる。
- 自然林の緑が多いが、整備が良好にされていない印象である。
- 緑化の活用が生かされていない。地域住民との繋がりなど、何かインパクトのある活用があると良い。
- 緑地の全体バランスが良い。工場を囲む緑地で、従業員の方が快適性を感じる。ただ、緑地の使い方が少なく、地域住民との交流や生物保護などに使うことも思考したらどうかと思う。また、敷地内の稲荷等を鎮守の神様的に開放して交流の場とするなど使い道を考えると良い。駐車場の屋根に太陽光パネルを設置し、少しでもCO2削減を図る取り組みは評価できる。

- 緑化面積は圧倒的に多く、従来の考え方であれば評価されるが、これからの緑化政策を考えると緑が多いから良いだけでは評価しづらい。この工場は倉庫を屋上緑化しているだけで、そこに何か付加価値を生んでいないと思います。観光だけの付加価値では、これからの緑化政策の優等生と言えるかどうかです。
- この工場は緑地の形状が工場と一体的にはなっていないが、緑地に樹木が覆うビオトープがあり、近隣大学との協働研究で、本格的な樹木、生物の生息研究がされている。また、地元小学校との連携による環境学習が行われ、緑地、生物の学びの場所として貴重な存在となっている。
- 緑地を中心とした工場で整備が整っている。特に緑地は、芝生と自然林を組合せた整備で、近隣大学の教授の指導で全体的に思想（訴えるもの）がある。
- 植栽樹種は、在来種を植栽することで、周辺動植物との調和を図っているところは評価できる。
- 当工場は、緑地率、庭園の作りが凝っていると思われます。その面から、緑地率は高まり見た目に緑の工場のイメージが強く出ていますが、これから、その緑化が何を生み出すのか、イメージを高める、従業員の憩いの場、地域住民との交流の場など付加価値を高める工夫が必要と思われます。
- 臨海部の工場は、緑地管理が大変で広大な面積、塩害、気候等でかなり難しいものがある。しかし、当該工場は、それをカバーしようとして努力していることがみえる。ただ、部分的なところでは、一般の工場と比べて遜色がない緑地管理の跡がみえるものの、全体として立木の剪定やビオトープなど工場の一体感がないのが残念である。また、地元住民との共有する緑地が少ないのもマイナスである。ただし、構内の緑肥・堆肥による土壌改良循環活動は評価できる。
- 工場緑化企業としてパイオニア的な存在である社風を誇りに、時代に即した工場緑化を北の大地の地域風土を踏まえてなされていることに好感が持てた。
- 新しい時代の工場緑化の取り組み姿勢に大変好感が持てた。工場全体がランドスケープ主導でなされていることはこれからの緑化工場が及ぼす地域への効果、貢献の評価が楽しみである。
- 成熟期を迎えた工場緑化ならではの風格を感じさせる事例であり、その管理における質量両面での工夫に好感が持てた。小学校や大学との連携も地方都市に立地する工場ならではの挑戦と評価したい。
- 緑地景観の向上に向けて多面的に取り組んでいる努力と職員参加の緑の工場づくりに対する主体的取り組みを評価したい。
- 食品関連工場らしく、自然あつての企業経営だと一目できる工場緑化を実現している。緑地景観の向上が企業の現在と未来に不可欠という取組が実感でき、まさに製品と共に成熟期に向かう工場として評価し、全国モデルとなる「緑の工場」のリーディング企業としての貢献を期待したい。
- 工場緑化への熱意が感じられる事例と感じた。緑化の機能や意義を一度整理して、さらに努力されることを期待したい

- これまでの努力の成果が見えてきている。より充実させるためには、専門家を招いてウォークスルー（関係する何人かで場内を回りながら）を実施して、次なる取り組みの方針を再構築したらどうでしょう。
- 食品関連工場に近年よくみられる「見せて訪れる」工場への経営方針から工場を単に緑化するだけでなく風景として調えるランドスケープ主導に向かい、結果として好感の持てる工場緑化に進化していると評価した。今後は、訪問者への公開区域と非公開、もしくは制限区域を明確にした市民ないしは地域住民に親しまれる工場にしてほしい。
- 周囲の環境との調和に優れ、少ない従業員にもかかわらず専門部署を設けて取り組んでいる。また、排出される焼酎粕を畜産飼料に再利用する循環システムの構築も、畜産県ならではの地域に即した取組と評価。
- 周囲の環境との調和に優れ、少ない従業員にもかかわらず専門部署を設けて取り組んでいる。また、排出される焼酎粕を畜産飼料に再利用する循環システムの構築も、畜産県ならではの地域に即した取組と評価。
- 敷地に木陰がなく、暑そうな印象。稲荷大明神や不動明王の周囲のような樹木の植栽箇所が増え、従業員が憩えるような木陰が増えてほしい。
- 周辺環境に調和した緑地を維持・管理されており、その努力は評価できる。今後、緑地を活用した生物多様性の保全や資源の循環利用、地域住民との協働の取り組みなどに発展していけばさらに評価が高まると思われる。
- 緑地は芝生から高木までバランスよく配置され、景観は大変良い状態に管理されており、そのご努力は評価できる。今後、緑地を活用した生物多様性の保全や資源の循環利用、地域住民との協働の取組などに発展していけばさらに評価が高まる。
- 芝生が大変美しく管理されており、その努力は評価できる。今後、高木や中低木をバランスよく配置し、その際地域固有種を植栽するなど生物多様性に配慮した取組などがあると、さらに評価が高まる。
- 多種多層構成の緑化など大変工夫しており高く評価できる。今後、「調整池があるようなのでビオトープとして地域と一体となった希少種の育成」、「多種多層構成の緑化に当たって、地域住民と協働した自然再生活動や観察会の企画」などを実施することにより、さらに評価が高まると思われる。
- 日本庭園風の庭園の維持・管理には大変な労力がかかっているのではないかと思います、その努力は高く評価できる。今後、「保養施設敷のエリアについて、例えば自然再生エリアに位置付け地域住民と協働した活動の実施」、「工場敷地の噴水池がかなり人工的な施設に見えるため、貴社の考え方によりますが地域住民と一緒にこれをビオトープとして改造・活用し、地域の固有種を育てるような活動の実施」などによりさらに評価が高まるのではないかと思います。
- 酒類の貯蔵庫屋上が緑化されており、ある意味で地下貯蔵庫と言える。気温と湿度の変化が穏やかな地中環境をさらに安定・持続させるために草本類（季節の花が楽しめる野草）の補植、地表のリターの蓄積など屋上緑地の充実が期待できる。自然による環境調節を行っている貯蔵庫で熟成される酒類であることを広報すべき。

- 不毛の地を緑化してきた実績やその後の様々な取り組みは大変高く評価できます。今後、例えば、「金網でできたフェンスの柱などを緑化樹を間引きした材で作設」、「森林の手入れで出た末木枝条を堆肥化しこれを敷地内の緑化に使用」、「ハスカップに限らず緑化した森林やビオトープにおいて地域の固有種を地域住民と協働して育成」など緑化してきた森林を核として様々な活動を有機的に連携させていくような取組があればさらに評価が高まると思われる。
- ビオトープエリアからの環境しみ出しを期待して、社員駐車場を緑陰駐車場化への検討を期待したい。樹冠下に駐車すると樹液の滴下が懸念されるが、他の樹種より滴下が少ないアキニシヤエノキなどを選択すると良いと思う。秋の落葉はありますが一時的なもので、夏の焼け込みを考えると一考の余地があると思う。特にエノキは昆虫の食相として有効。更なるエコアップを期待したい。
- 地域性苗木を利用されて緑化されているが、斜面への植栽にあたっては植穴の谷側に土留めの柵等（植穴の半分の半円状）を設けて植穴の土壌面を水平化することで、植付け後の活着と生育が良好になる。当工場の敷地には斜面が多いように見られるので参考にしてほしい。
- 駐車場に太陽光発電パネルを用いた庇を設けることで、夏の焼け込み防止の日陰づくりと創電が可能になると思う。
- 植生（緑）充実には昆虫はもちろん動物相の充実にも貢献する。しかし一方で人の生活を脅かす動物も出現することもある。当所でもシカ害対策をとられているが、侵入防止方法としてシカは足への危害を恐れるために粗朶（試験では竹）の格子、廃棄漁網などによる水平柵（地表からクリアランスをとる必要がある）などを施行してはどうか。人と動物との共存のためにも植生との関係について考えを巡らしていただければと思う。
- 正面入口道路および裏門道路の通路と緑地の境界を花壇・低木の列植・景石の配置などにより区画する修景してほしい。車道と緑地の境を明確化することで機能分担が洗練される。なお、敷地西側の川に接する調整池はビオトープとしての活用を期待したい。南西側の調整池は貯留量に影響のない範囲で底面を整備して浅く（5cm程度）水を張ることで景観が良くなると思う。合わせて護岸の整備をされることも期待したい。
- 外周に植栽したヤマモモの根元周辺に雑草が刈り残されているようである。また、斜面のツツジ類植栽地の上下端にススキ類が侵入している。これらの雑草は植栽地の景観を損なうとともに、雑草化を招きかねないので除草管理をしてほしい。生產品の特性から建物屋上での創電（太陽光等）も検討してほしい。
- ランドマークとしてヤシ（フェニックス）を取り上げているので、工場正面の修景集計植栽、外周既存地植栽木の間への補植、芝生地への並木状の新植などを検討してほしい。ヤシによる洗練された工場景観を目指してほしい。もちろん既存樹木の植栽による緑量確保は必要であるが、ヤシと既存樹木の混在は雑然とした景観になるので注意が必要。メリハリをつけた植栽景観を心掛けてほしい。